



インスピレーションになろう

国際ロータリー第2790地区 千葉南ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



■創立■ 1964年3月2日 ■例会日■ 毎・金曜日12時30分 ■例会場■ オークラ千葉ホテル
 ■会長■ 五十嵐 博章 ■幹事■ 松尾 博之 ■会報委員長■ 普天間 操
 ■事務局■ 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

2018-19年度

第2678回

2019年5月31日(金) 点鐘12:30 《曇り》

- ◆ロータリーソング『それでこそロータリー』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～
 1. 真実か どうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- ◇本日のゲストスピーカー
元ラグビー日本代表 今泉 清様
- ◇川崎南ロータリークラブ 吉留 たかし様
- ◇吉留たかし様のご友人 柳瀬 雄二様

◆会長報告 五十嵐 博章会長

今日は元ラグビー日本代表の今泉さんをお迎えしております。さすがに立派なお体をしていらっしゃいますね。当クラブにお見えになった方で、私より大きな体をされている方はプロレスの大谷新次郎さん以来です。いずれにせよ身体の大きな人に悪い人はおりませんので、どうぞ宜しくお願いします。

今日は親睦と例会出席の意義について、私なりに考えたことをお話しします。

ロータリーライフの中で最も大切なことは例会出席です。もともとは一人一業種で選ばれた専門職の代表が毎週一回集まってお互いの職業上の発想の交換をしながら、自らの職場や業界に報いる職業奉仕のノウハウを学ぶ学習の場が例会であり、また職業奉仕とは、自らの職業に関連を持つすべての人々にプロフィッツをシェアしながら事業を継続しながら発展させていく方法なので、例会がうまく機能させれば会員に語り知れないメリットを与える事が出来る。例会で語られる事業上の発想の交換は、本音を語ると機密事項にも触れる可能性があるもので、クラブの会員は本音で語ることが出来るかたい友情で結ばれることとなります。もし自分の職場でロータリーの職業奉仕の理念に行為があれば直ちにこれを改善し

なければならない。その権限のことを裁量権と呼んでいます。

どんなことを相談してもわが身が不利にならないようなクラブの会員全てが固い友情で結ばれている状態のことを親睦と呼んでいます。親睦活動はこの揺るぎない親睦を作り上げる手段でしかありません。

ここからは問いかけですが、

- ◇私たちのクラブには真の親睦が存在しているでしょうか？
- ◇私たちの例会では、活発な事業上の発想の交換が行われているでしょうか？
- ◇私たちの会員は真の裁量権を持ち、行使しているでしょうか？
- ◇事業上の利益を犠牲にして参加した例会でそれを上回るメリットが得られているでしょうか？

このようなことを問いかけながら、充実した例会を心がけて行きたいと考えている今日この頃であります。

◆委員会報告

特にありません。

◆幹事報告 松尾 博之幹事

特にありません。

◆ニコニコボックス報告

《五十嵐博章会長・松尾博之幹事》

緑が日に日に濃さを増し、梅雨入り前に山歩きなどもいいかなと思う今日この頃です。

さて、本日はゲストスピーカーとして、元ラグビー日本代表の今泉清様をお迎えしております。元気をいっぱい貰いたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

本日のニコニコボックス	2,000 円	累計	308,170 円
金の箱	1,007 円	累計	24,079 円
ポリオ・プラス	0 円	累計	23,961 円

◆出席報告 (会員数48名)

出席者数	欠席者数	ビジター	5/17 修正出席率
25名	22名	3名	71.74 %

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	6/25	センシティブタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	6/18・6/25	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	6/12・6/26	京成ホテルミラマレ
千葉北RC	水	6/26	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	6/13・6/27	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	6/20	京成ホテルミラマレ

本日の卓話

演題⇒『ラグビーの魅力について』
卓話者⇒元ラグビー日本代表 今泉 清様



本日は宜しくお祝い致します。

まずは現役時代の映像を見て頂いて、ビフォー・アフターを楽しんで頂けたらと思います。狙ったわけではありませんが、今領国の近くに住んでいますのでラグビーをやっていたと言わ

なければ、間違いなく相撲関係者に間違われます。外国人観光客に「～部屋はどこ？」とよく聞かれます(笑)。

この当時は 100 メートルを 11 秒で走っておりました。今ではゴールにたどり着けません。

当時、某お酒メーカーにおりまして、ラグビーが終わると体を張った営業に回されます。1 日のノルマが 30 件なので、最低でも 30 杯、滞在時間は 20 分位なので 2 杯飲むこともおつまみを食べることもあり、そうすると人間は縦に伸びずに横に広がります。とうとうサカゼンで 8L を超え、体重も 135 キロになったところで健康診断にも引っかかり、このまま行くと死んでしまうと思い退社しました。

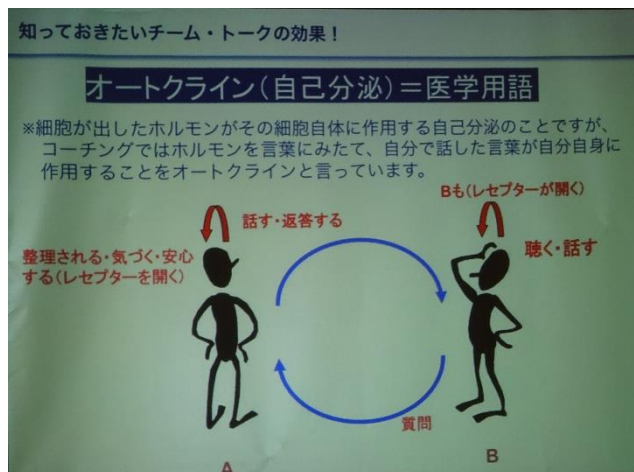
ずっとラグビーに 40 年携わってきて、チームを強くすることであったり、強いチームは何が備わっているかというようなことを研究しました。自分ではこうしたら勝てるというような自論はありましたが、あくまで自論なので他人には理解してもらえない。反対に理論は万人に理解してもらえるものなので、これを勉強するために、大学院に行って学んでまいりました。

ラグビーの選手は試合前に泣くことが多いのです。なぜ泣いているのかとか、ラグビー特有の物の考え方というものがあります。

小学校からラグビーを今に至るまで携わっていると、特殊な技能が生まれて、チームスポーツの試合前の状況でどっちが勝つかわかるようになります。集団の組織の行動というものが表に現れます。例えば、勝つチーム

は監督が集合を掛けたときにさっと集まって、小さい綺麗な円陣を組んで監督の話を聞こうと半身に構えます。負けるチームはだらだら集まり、円陣が大きくきれいではありません。では、意図的に小さい円陣を作ればいいというものではなく、ここに至るプロセスがあるのです。チームが一体になってないといけません。これをラグビーではワンチーム・ワンハートといいます。ロータリークラブに置き換えても、会員が信頼関係を持ってビジネス上の悩みや気づきを共有していくとチーム千葉南のようにワンチームになれるのです。

オートクライン



自分が話したことば(内容)を自分で聞くことによって、気づきやアイデアがどんどん浮かんでくるということです。今のチームスポーツでは、チームトークが大事になっています。例えば、女子カーリングチームは試合中にずっと会話しています。積極的に会話をして脳を活性化し、現状と問題を分析し、話し合いで解決します。するとお互いに閃き合い、益々チームがまとまります。逆に監督の指示に従っているだけだと、うまくはまれば勝てますが、監督の器を超えて大きく成長することはありません。ニュージーランド・オールブラックスというチームは過去最多の優勝 3 回、現 2 連覇中ですが、プレーが止まった時、集まれる人間でさっと集まってチームトークをしています。これがオールブラックスの強さの秘訣です。日本のコミュニケーションは一方的なものが多く、「わかったな」「わかりました！」で完了し、結果全くちゃんと伝わっていなかったということが多いです。本来頭に CO とつくものは接続詞でシェア・共有という意味があるので、確認しないと伝わったかどうかわかりません。これをきちんとやったのが、エディ・ジョーンズさん南アフリカに勝った時の日本代表監督です。方針等や練習内容を説明したあとに必ず、みんながどこまで理解したか解らないので、それを確認する為に必ず質問をします。逆に質問がないと不可解な顔をします。欧米では当たり前ですが、日本は一方通行が多いです。

人は自分の話を聞いてくれると安心します。それを繰り返すと信頼に変わります。これが本来のコミュニケーションであります。CO でいうと、例えば会社も理念がトップも社員も共有されていなければならないし、COACH も本来は馬車という意味で、今でいうとタクシーといえわかり易いと思います。目的地を言えば共有して連れて行

